



かたはSP学生Office

教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

かたはSP通信

と
ひ
と
学
生
と
ツ
ム
ぐ

第23号

2017年8月7日

編集 竹内稔博

(東浦中学校主幹教諭)

夏休みわくわく算数・数学教室特集号 No.2

～そうだ、夏は、東浦へ行こう！ 東浦の子どもたちのために、
そしてSPさん自身の教師力向上のために～

初日、台風で延期

8月7日。朝から大雨。7時半に暴風警報が発令。算数・数学教室の初日ということで、「この日、見に行くね」と言って下さっていた大学の先生方や町議会議員さんもみえたのに、見ていただくことができずに残念でした。それ以上に、この日を楽しみにしていた小学生、中学生たちは、来ることができなくなって、とても残念な気持ちだったことでしょう。また、小中学生との出会いを楽しみにしていたSPさんも残念がっていたことでしょう。

そんな中で、片付けと準備だけに来てくれた11人のSPさん。本当にありがたかったです。昨日に準備しておいた勤労福祉会館の片付けと、次の会場である文化センターへの荷物移動、会場再準備…。1時間ほどですべて終わることができました。汗だくになりながら、終わった後は気持ちのよい表情を皆が浮かべていました。小堂先生からのお茶の差し入れもありました。

「かたはSP」のリーダーである山田さんが言いました。「僕、警報が発令されたときは、もうすでに、こちらに向かっていたから。お手伝いできればうれしいです。」笑顔でした。「こんなふうにかんがえることができる学生さんって、すごい」。正直、そう思いました。長坂郁美先生も話していました。「本当にすごい人たちばかり。東浦に来てくれる大学生の人はすばらしい。すてきな人ばかり」毎日、いろんな人と接している長坂先生や現役の先生方から見ても、こうして「自分で動く」「教職の意義を感じて進んで活動に参加する」学生さんたちを見て、感じるのでしょうか。大きな刺激を受けています。

また、中村先生は、この活動の中で、こうも言っていました。「(先生になって)現場に出たら、こういう経験が絶対生きるから」。そうなんです。子どもたちのために何かをするときには、その陰で、相当な労力・心配り・準備が必要です。それは、子どもや保護者の目に触れることはなかなかありません。でも、個を大事にするという教師の姿勢は、必ず子どもに伝わるものです。今回の片付け、準備、名札作り…。これらが行き着く先を知っているからこそ、尊い活動であることを知っているからこそ、学生さんは皆、こうして進んで笑顔で活動してくれるのでしょうか。こういう経験すべてが、学びです。教職に就く前の大きな学び・経験を、SPさんはしてくれています。



東浦中学校竹内稔博先生作成の「わくわく算数・数学教室通信第2号」を「ツムぐ学生」用に改編しました。